

平成20年度

学校自己評価書

宮崎県立宮崎大宮高等学校

平成21年 3月

1. 教育方針・学校経営ビジョン・努力目標・重点努力目標

教育方針
<p>教育基本法の理念と宮崎県教育基本方針、宮崎県人権教育基本方針、「明日の宮崎を担う子どもたちを育む戦略プロジェクト」「のびよ！宮崎の子どもたち」に基づき、</p> <ol style="list-style-type: none">1. 中学校における教育成果をさらに発展拡充させ、国家・郷土社会への誇りと愛情を深め、その有為な形成者の育成を期する。2. 人間尊重の精神を基調として、健全な批判力と個性の確立に努め、柔軟な国際感覚を持ち、自主的精神に満ちた、心身ともに調和のとれた人間の育成を図る。3. 基礎学力の向上と創造性を啓発し、個性に基づく適正な進路指導を行う。4. 開かれた学校を目指し、学校・家庭・地域及び学校間や各種機関等との連携を深める。
学校経営ビジョン
<p>本校の教育の理想とする人間像である「真理を探り、美にあこがれ、善を行う、心身ともにバランスのとれた人間」の育成など、よき伝統を受け継ぐとともに、「生徒の知りたいを刺激する授業、夢実現につながる学力を培う指導」、「『夢＝挑戦』から『高き夢＝実現』へと高きを目指す進路指導」、「あれかこれかではなく、あれもこれも、生徒の長所を伸ばす指導」、「生徒がそして保護者が職員がワクワクする話題性をつくりだす学校経営」を行い、常に進化し続ける宮崎大宮高校づくりに努める。</p>
努力目標
よき伝統を受け継ぐとともに、常に進化しつづける学校を目指す。
重点努力目標
<ol style="list-style-type: none">1. 「明るく・元気な生徒」、「自主自律できる生徒」、「品性の高い生徒」を育成する。2. 質の高い進学校を目指す。3. 職員・生徒・保護者・OBの絆を大切にし、信頼される学校を目指す。4. 職員研修の充実を図る。

2. 各重点努力目標と自己評価等

(1) 重点努力目標： 「明るく・元気な生徒」、「自主自律できる生徒」、「品性の高い生徒」を育成する。

評価項目	「明るく・元気な生徒」、「自主自律できる生徒」、「品性の高い生徒」の育成への取組				
具体的方策	自己評価	具体的方策に対する成果	今後の改善	学校関係者評価	学校関係者評価を受けての改善の見直し
<p>①生徒会や各種委員会が研修等の報告を全校集会等でプレゼンテーションする機会を設ける。また、生徒による全体討論の時間を学校行事として設定する。</p> <p>②生徒表彰式や各種競技の推戴式等で、生徒自身による実演等を導入する。また、各種競技会の戦績等の掲示方法を工夫する。</p> <p>③毎朝、部活動生によるボランティアの清掃活動や生徒会役員による挨拶運動を継続する。</p>	3	<p>①生徒会役員の委員会活動における言動から、生徒たちが委員会活動により一層自主的に取り組もうとする姿勢が見られるようになった。また、一般の生徒も各種委員会の取組や発言内容から、委員会活動への積極的な取組が見られるようになった。</p> <p>②他の生徒の前で部活動等の生徒が実際に演技したり、競技や活動の様子を解説したりすることにより、表彰を受ける生徒も他の生徒もより一層生き生きとした表情が見られるようになった。また、各種競技会の成績等を学校掲示板やクラスに掲示することにより、部活動等についての話題が生徒たちの日常会話に反映されるようになり、生徒の諸活動に対する関心がより一層高まった。</p> <p>③早朝のボランティアの清掃活動や生徒会による挨拶運動等により、校内や学校周辺がきれいになり、地域住民の方からの激励の言葉や感謝の言葉が聞かれるようになるとともに、日常の学校生活の中での生徒たちの挨拶状況がさらに改善され、より一層明るさや元気な表情が生徒たちに見られるようになった。</p>	<p>☆次年度の計画立案に際し、今年度の活動についてのアンケート調査等を実施し、そのアンケート調査等の結果から改善点を検討し、次年度の計画立案に活かす。</p> <p>☆次年度も、生徒たちに実演させたり、あるいは、活動の様子を説明させたり解説させたりする機会を設定する。また、生徒の部活動等の活躍の様子を知らせる手立てについて生徒会等と連携を図り、速やかに他の生徒たちに知らせる工夫をする。</p> <p>☆今後も本校生徒によるボランティア活動を推進し、他の地域で清掃等のボランティア活動にも積極的に参加させたい。</p>	<p>○自己評価を「4（期待以上）」に変更しても良いのではないかと。</p> <p>○自己評価は「3（ほぼ期待通り）」であるが、どの項目も具体的方策が効果をあげていると考えられるので、「4」にしてもよいのではないかと。</p> <p>○生徒会が主導で生徒がよく活動しており、帰属意識、挨拶等、前向きな取組がなされている。進学のみならず、「人を育てる」部分がしっかりしている。</p> <p>○アンケートは、一層項目を検討してはどうか。どの活動、どの取組が生徒の意欲向上につながったか確認できるアンケートとし、今後の教育活動の参考にしてほしい。</p>	<p>◎アンケート調査を実施する際に、どの活動、どの取組が生徒の意欲向上につながったか分かるものへと改善する。</p>

☆ 自己評価指数： 4（期待以上）、3（ほぼ期待通り）、2（やや期待を下回る）、1（改善を要する）

(2) 重点努力目標： 質の高い進学校を目指す。

評価項目	質の高い進学校を目指す取組				
具体的方策	自己評価	具体的方策に対する成果	今後の改善	学校関係者評価	学校関係者評価を受けての改善の見直し
<p>①学習指導要領等の改訂に沿って本校の教育目標を達成するために、教科代表者会等で各教科間の共通理解を図り、学校全体として共通実践ができるよう教育課程編成の見直しをする。</p> <p>②各学年の総合的学習の時間で進路学習を深め、各学年の進路指導の充実を図る。</p> <p>③2学年の総合的学習の時間に大学教授による出前講義を取り入れ、生徒による学部学科研究（本校では「GG制」と呼ぶ）と連携させ、進路意識を高めさせる。</p> <p>④学年PTAに進路講演会を取り入れる。また、PTAに依頼して職業講座（大宮ハローワーク）を実施する。</p>	3	<p>①教科代表者会で、次年度に向けた教育課程編成のあり方について十分検討し、3ヵ年を見通した各教科・科目の履修のあり方について共通認識・共通理解が図られ、具体的な教育課程編成を行った。</p> <p>②進路学習を各学年の総合的な学習の時間に計画的に実施することによって、回を追うごとにクラスの進路学習における生徒の真剣さが増加した。また、昼休みや放課後等には担任や学年主任等と進路相談をする生徒の姿が多く見られるようになり、それぞれの学年に相応しい進路意識が生徒の意識の中に醸成されるようになり、自己実現に向けた生徒の意欲も高まった。</p> <p>③講義終了後の生徒の感想文等によると、大学教授の講義を直接受けることにより、生徒の各自の進路意識の高まりや、進路希望と関連づけた学部学科研究（「GG制」）への取組が深まったことがわかった。</p> <p>④進路講演会を生徒や保護者との面談指導に活かすことにより、生徒や保護者の進路意識が一層高まるとともに、生徒や保護者と担任等とのコミュニケーションがよりスムーズに行われるようになった。また、大宮ハローワークで生徒の進路意識が高まった。</p>	<p>☆教育課程編成について、その運用と実践及び、その効果のついて検証を行いつつ、今後の改訂作業に取り掛かる。また、新教育課程への移行の準備を進める。</p> <p>☆各学年の総合的な学習の時間の計画と進路指導計画の効果的な連携を更に図り、3ヵ年を見通した進路指導の充実を図る。</p> <p>☆生徒の感想文等をもとに、進路指導部との連携を図り、来年度も可能な限り大学教授の講義を総合的な学習の時間に取り入れ、「GG制」の充実を図る。</p> <p>☆本年度の進路講演会の成果をもとに、生徒の感想文等を勧奨し、来年度も他学年との連携をさらに密に図り、3ヵ年を見通した計画立案を行う。</p>	<p>○自己評価「3（ほぼ期待通り）」は妥当である。</p> <p>○PTA活動について、卒業時にPTAにアンケートをとってはどうか。どのPTA活動が子どもの進路を決める時などに、役に立ったのか質問するとよいのではないか。</p> <p>○大宮ハローワークのような職業指導は大切なことであり、来年度も是非実施していただきたい。高校時代に仕事は大変であるということを生徒に知らせることは大事なことである。仕事の大変さを知った後、就職して仕事の大変さを味わうのと、知らずして仕事の大変さを味わうのとでは大きな違いがある。</p> <p>○失敗したときに踏ん張れる生徒を育てて欲しい。そのためには、教育では、成功の例より、むしろ、失敗の例の方を生徒に話す方がよいのではないか。失敗例を知っているほど、失敗した時に、より踏ん張れるのではなからうか。</p>	<p>◎卒業学年のPTAに、3年間を振り返って、どのPTA活動等が生徒の進路決定等に対し、役立ったか、評価できるようなアンケートを検討する。</p> <p>◎来年度もPTAに協力を得て、職業講座（大宮ハローワーク）等の職業指導に関する活動を計画実施するなど、幅広い取組を行う。</p>

☆ 自己評価指数： 4（期待以上）、3（ほぼ期待通り）、2（やや期待を下回る）、1（改善を要する）

(3) 重点努力目標： 職員・生徒・保護者・OBの絆を大切にし、信頼される学校を目指す。

評価項目	職員・生徒・保護者・OBの絆を大切にし、信頼される学校を目指す取組				
具体的方策	自己評価	具体的方策に対する成果	今後の改善	学校関係者評価	学校関係者評価を受けての改善の見直し
<p>①ホームページを常時更新するなど一層充実させる。また、毎月、学校広報紙「自主自律」を発行するなど、広報活動に積極的に取り組む。</p> <p>②学校創立120周年記念式典を充実したものとするために、学校・同窓会・PTAとの連携を密にして準備を進める。</p> <p>③PTA行事を学校が一体となって一層推進する。具体的には、弦月三土会、PTA理事会、PTAボランティア活動、PTA交通安全指導、大宮ハローワーク等を充実させる。</p> <p>④オープンスクールの授業参観を充実させる。</p>	4	<p>①本校ホームページへのアクセス数が昨年末で約18万件あり、常時更新の効果が出ている。また、適時に学校広報紙「自主自律」等を学校周辺の地域や中学校に配付することや積極的な中学校訪問等により、本校の教育活動内容への一層の理解が深まった。また、中学校や小学校PTA等の本校への訪問が10件あり、その訪問者の8割以上から本校対応に「満足」という回答を得られた。</p> <p>②記念式典、記念講演・公演、「創立120周年記念ギャラリー」創設の実施等について、記念式典終了後のアンケート調査では、95%以上の生徒が「意義深いものとなった」と評価し、高い満足度を得られた。</p> <p>③弦月三土会(延べ83名参加)、PTA理事会(平均出席率74%)、PTAボランティア活動(述べ215名参加)、PTA交通安全指導(参加35名)、大宮ハローワーク(講師29名参加)等、PTA各種行事への出席率が80%以上を越え、充実した活動となり、生徒・保護者の高い満足度を得られた。</p> <p>④オープンスクールで参加した中学生や保護者(1日目736名、2日目428名)へアンケートを行い、全体説明で80.1%、学科別説明で普通科80.5%、文科情報科95.2%で本校の取組を満足と評価する回答が得られた。</p>	<p>☆中学校への本校紹介と情報提供時期を少し早めに設定し、本校の教育活動の内容と成果に対する中学生・保護者への理解を深める。メールによる保護者等への新たな連絡方法を確立し、学校行事等を保護者に迅速かつ確実に伝えることにより、学校の教育活動や教育内容等に対する保護者の一層の理解と協力を求める。</p> <p>☆今後とも学校行事の工夫改善に努める。</p> <p>☆PTAとの連携を一層図り、PTA行事終了後のアンケート等の反省を来年度の計画立案に活かす。</p> <p>☆本年度のアンケート調査の結果を活かして、来年度もオープンスクールの日程や方法等について改善を加えて、一層充実するように計画立案する。</p>	<p>○自己評価「4(期待以上)」は妥当である。</p> <p>○ホームページのアクセス回数の自己評価書の書き方に工夫を加えるとよいのではないか。たとえば、開始時期から現在まで何回、などと書く、インパクトが強いのではないだろうか。</p> <p>○本校の校外でのボランティア活動に対して、地域社会の期待も大きく、評価も高い。例えば、神宮大祭の山車を引くのに、野球部の加勢を頂いたが、参加した高齢者の方から、「高校生は礼儀正しく、しかも、高校生が手伝ってくると、自分たちも元気になる。」など好評であった。</p> <p>○PTA活動の取組がよい。活発な活動がなされており、参加者も多く、生徒・保護者・学校の三位一体となった活動になっていて、素晴らしいPTA活動である。来年度も続けていただきたい。</p>	<p>◎ホームページの常時更新を今後行うとともに、アクセス回数の表示方法を工夫する。</p> <p>◎校内外のボランティア活動に対する生徒の意識を更に高め、積極的な参加を促す工夫を検討する。</p> <p>◎PTA行事をPTAと学校とが力を合わせて、今後も充実した活動を行っていく。</p>

☆ 自己評価指数： 4(期待以上)、3(ほぼ期待通り)、2(やや期待を下回る)、1(改善を要する)

(4) 重点努力目標： 職員研修の充実を図る。

評価項目	職員研修の充実を図る取組				
具体的方策	自己評価	具体的方策に対する成果	今後の改善	学校関係者評価	学校関係者評価を受けての改善の見直し
<p>①授業力向上に繋がる東大入試研究等効果的な研修実施に取り組む。</p> <p>②1学期と2学期に教師による参観授業期間を設定し授業研究を実施するとともに、本校の教科指導支援教員等の授業を積極的に参観すること等によって、教師の教科指導力向上研修を推進する。</p> <p>③生徒による授業評価を実施し、教師や生徒へのフィードバックを生かし、授業改善を推進する。</p>	3	<p>①今年度は県教育委員会の指導主事に教科の研修会にも参加していただき、研修会の内容が深まるとともに、報告会の中で担当主事から指導助言を受けた。研修での取組をその後の授業の中で実践することにより、教師授業力向上に繋がった。</p> <p>②6月9日から20日、10月14日から24日に「授業参観カード」を利用して授業参観を実施した。その後、「授業参観カード」を基に、教科会で合評会を開いた。合評会では、各教師の指導上の課題を明らかにして、改善策を協議・検討すると共に、お互いの指導技術や指導方法等について共通理解、共有化を図った。このことにより、各教師の教科指導力向上や授業改善に繋がった。</p> <p>③生徒による授業評価の中で、「わかる授業・力をつける授業」の評価3以上(4段階評価)が85.1%に達し、概ね充実した授業がなされていることがわかった。</p>	<p>☆各教科での今年度の取組の結果を基に、来年度も計画を立て、教師の授業力向上に繋がる研修会を立案する。</p> <p>☆授業参観の実施についての各教科のまとめをもとに、参観時期や「授業参観カード」の検討・改善を行うと共に、教科指導支援教員の一層の活用を図る。</p> <p>☆生徒の授業評価、参観授業やオープンスクール等、アンケートの回答内容を精査し、更に参加者の満足度があがるよう授業改善に努める。</p>	<p>○自己評価が「3(ほぼ期待通り)」となっているが、具体的方策が効果をあげており、評価を「4」としてもよいのではないだろうか。自己評価を「4」にするのは、なかなかしづらいものであるが、「ここが売りである。」「今伸びているところはここです。」と主張することは大切なことである。自信を持って、売り込めばよいと思う。</p> <p>○生徒による授業評価の中で、「わかる授業・力をつける授業」の評価3以上(4段階評価)が85.1%に達して授業が充実していることが分かるが、その中の課題となる項目についてどう改善するか、その方策を評価書に書き込んで改善してはどうか。</p> <p>○教師が宮崎大宮高校に赴任して良かったと思えるほど職員研修が充実している。宮崎大宮高校に入学した生徒は、このような研修を積んでいる先生方がいる高校に通ってよかったと思うのではないだろうか。</p>	<p>◎現在実施している生徒による授業評価を受けての改善策について検討する。</p> <p>◎今年度の反省を精査し、来年度も職員研修の充実を図れるように検討する。</p>

☆ 自己評価指数： 4 (期待以上)、3 (ほぼ期待通り)、2 (やや期待を下回る)、1 (改善を要する)